

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科		
科目名称	子どもと園芸						授業形態	演習	
科目コード	750185	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃、新谷 喜紀、長江 嗣朗、山口 健一							ICT活 用	○
授業概要	食と農業から改名した「子どもと園芸」については、2005年の食育基本法の制定や2005年の教育基本法や学校教育法の改正により、食育や科学教育の観点から、継続的な栽培を中心とした農業体験を行うことが保育・教育現場で求められている。一方、保育者・教育者の農業体験の指導力の低さが問題となり、保育士・教員養成課程における知識・技能の習得も重要となっている。 本講義では、食育や科学の視点から農業体験を捉え、最初に食育基本法や教育基本法、学校教育法など法的背景と、学習指導要領や保育所指針等での栽培の取扱いについて理解を深める。次に、保育幼稚園や小学校で取り扱う栽培植物の特性と栽培の理論を学びながら、フィールドセンターの畑を活用して、播種・植え付けから管理、収穫、調理と食べるまでの一連のプロセスを実践的に学ぶ。さらに、植え付けや芋掘りなどの農業体験を子どもとたち一緒に行うことで、農業体験の教育的意義を深く学び、南九州大学の緑と食の特色を持った保育士・教員を目指す。								
関連する科目	人間と自然の共生、子どもと自然、理科、生活科、教科教育法（理科）、ESD・環境教育論、ESD・環境教育演習、学校ビオトープ、子どもと昆虫								
授業の進め方 と方法	毎回の授業は、前半は室内で理論や知識などを習得し（座学）、後半はフィールドセンターの畑で、農業体験の楽しさを受講者自身が実感しながら（活動）、栽培とそれを活用した教育に関する知識・技術を実践的に習得していく。								
授業計画 【第1回】	第1回：[座学]教育のなかにみる「食と農」（遠藤） ・食育基本法の制定とその背景、内容について理解を深める								
授業計画 【第2回】	第2回：[座学] 学習指導要領と栽培活動 [活動] 学級農園の準備（施肥・畝立、サツマイモのマルチ張り）（遠藤） ・学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などから栽培活動の意義を理解する。								
授業計画 【第3回】	第3回：[座学] 自然と共生する農業 1：サツマイモ（種類と特徴、栽培方法） ・サツマイモの栽培特性と品種について学ぶ ・サツマイモを畑に植え付ける準備を行う。								
授業計画 【第4回】	第4回：[座学] 自然と共生する農業 2：環境負荷の少ない農業について（肥料と農薬、種子） [活動] サツマイモの植え付け（山口健、遠藤） ・環境負荷の少ない農業について学ぶ。 ・サツマイモを畑に植え付ける作業を行う。								
授業計画 【第5回】	第5回：[座学] 理科教材としての栽培作物とその特性 [活動] 栽培計画、サツマイモ畑の確認とメンテナンス ・理科で扱われる栽培植物について、教材とされる品種と特性について理解する。 ・品種を分担し、栽培計画を立案する。								
授業計画 【第6回】	第6回：[座学] 農業体験の教育的目的と手法 ・保育士・教員志望学生の現状と改善（2019年度卒業研究を参考に）								
授業計画 【第7回】	第7回：[座学] 栽培活動（計画と実践）								
授業計画 【第8回】	第8回：[座学] 連携幼稚園の園児との活動計画 / 保育所指針・教育要領 ・幼児教育における食と農による教育目的と手法の合致								
授業計画 【第9回】	第9回：[座学] 連携幼稚園の園児向けプログラム完成 [活動] 連携幼稚園の園児向けプログラムの準備 ・プログラムの計画、運営、実践に取り組む ・活動の目的と評価を行う								
授業計画 【第10回】	第10回：[座学] 身の回りの動物（昆虫を中心に）：生活科・理科との関連（遠藤） ・小学校の理科、生活科で扱う動物について教科書を参考にして、生物学的特性について理解する。								

授業計画 【第11回】	第11回：〔座学〕総合的学習と農業体験（ESDカレンダーの作成） 〔活動〕畑の観察・作業、昆虫観察 ・農業体験を小学校の総合的学習の中に位置付け、教科等との関係性について学ぶ。 ・ESDカレンダーを作成し、教科横断的学びのイメージを構築する。
授業計画 【第12回】	第12回：〔座学〕子どもと昆虫 〔活動〕畑の観察・作業、昆虫観察（ゲストT：新谷） ・昆虫について、作物の害虫と生態系の構成員という二つの視点から学ぶ。 ・畑に生息する昆虫を採集・観察することで昆虫についての学びを深める。
授業計画 【第13回】	第13回：〔座学〕花と身のまわりの植物：生活科・理科との関連（長江） ・花育という視点から花について学ぶ。 ・生活科・理科でも扱う、身の回りの植物について採集し観察することで学びを深める。
授業計画 【第14回】	第14回：〔活動〕連携幼稚園の園児向けプログラムの実践：マリーゴールドの定植他 ・プログラムの運営、実践に取り組む ・活動の目的と評価を行う
授業計画 【第15回】	第15回：〔活動〕調理と試食（於：家庭科実習室） ・栽培した野菜、地域の農産物を調理して試食する
授業の到達目標	・保育や学校教育における農業体験や栽培の役割とその重要性について理解を深める。 ・園芸を介した保育・教育について、プログラムを通して実践的に理解する。 ・園芸を保育・教育に活用する際に必要な園芸の知識とスキルを、栽培活動を通して実践的に習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	・教員・技能員の指導を受けながら、各自で畑の管理（水やり、追肥、除草など）を適宜行う ・定期的に栽培記録を作成とファイリングする ・ESDカレンダーの作成 ・「栽培計画」「栽培活動スケジュール」の作成 ・子どもたちとの活動のプランニング
授業時間外学習【復習】	・教員・技能員の指導を受けながら、各自で畑の管理（水やり、追肥、除草など）を適宜行う ・定期的に栽培記録を作成とファイリングする ・ESDカレンダーの作成 ・「栽培計画」「栽培活動スケジュール」の作成 ・子どもたちとの活動のプランニング
課題に対する フィードバック	課題については、随時、解説を行う。
評価方法・基準	最終レポート(30%) 講義への参画状況(関心・意欲・態度、40%) 講義毎のレポート(課題の達成度・理解度等、30%)から総合的に評価する。
テキスト	適宜配布する
参考書	特になし
備考	・天候等によって講義内容・開講日時が変更になることもある。 ・栽培活動をする場合は、長靴や汚れても良い格好で参加する。 ・夏季に連携幼稚園の園児達と活動を予定している。